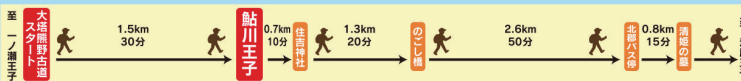


大塔熊野古道



古道マップ



王子とは

熊野詣の道中、熊野の御子神を祀り修行苦行の信仰の道をつなぐために設けられた神社が「熊野九十九王子」です。

王子社では、旅人や貴族が休息や宿泊をとり、時には和歌会なども開かれ、長い旅の疲れをほぐし、熊野の地を拜って旅の安全を祈ったといわれています。

九十九王子は、実際の数はなく数の多いことを表現しているものです。現在建物による、王子跡は大坂より和歌山にかけて九十数社となっており、その中でもとりわけ格式が高いのが、藤代(藤白)・切目(切目)・稲葉根(上置田)・滝尻・禰心門の5社で、これらを五体王子と呼んでいます。

鮎川王子社跡

御幸道は、一ノ瀬王子から再び川を渡っていたことが「御幸記」の次にアユカ王子に参る、河の間の紅葉の浅深の影、波に映し、景気殊勝なり「河の深き処は股に及ぶも袴をかけたす云々」と石田川(現富田川)の渡渉の様を述べていますが、その頃堤防の整備がなく、川を渡のように利用していました。

股まで渡かる川の中で、秋深自然の景勝をめぐる余裕があったそうです。一ノ瀬からの道はおそらく対岸の敷り屋の裏側へたどりつき、そこから谷に沿って、成道寺のある台地付近をこえて、鮎川王子へ向かっていたと思われます。

鮎川新橋の北詰は、かつて山の裾がもつと川へつき出している王子田という田があり、このあたりを「いやの谷」といって王子田がありましたが、明治22年の大水害で崩れとられ、今は往跡の姿が見られません。後の山を権現山、王子山といひ、園道から少し上がった所に権現社を祀っています。

御所の瀬、御所平

鮎川王子の川を渡るのを越した集落に向かって右の方岩山の川面に切り立った川の川床を「御所の瀬」といいます。往昔御所のあった瀬として語られた名で、瀬の背後の平地が御所平です。

鮎川王子からの御幸道はそのまます石田川の北岸を東へ進む。宇立の東に依橋がありますが、ここは往昔の渡場では向越は向越しての集落に向かつて右の方に山出しの川面に切り立っているがそう高くなく、この山の下の川の瀬を「御所」の瀬といわれています。これは誤りながら平地をなしている「御所平」と呼ばれていて御所平は昔白河上の熊野御幸の折、飯沼の御所と伝えられています。

「紀伊続風土記」岩田郷鮎川村の条に「御所平 念仏淵」小名藤野にあり、御白河法皇御幸の頃高の地と云ふ。念仏淵は法皇御供養の瀬と云ふ。「阿闍梨平などの字あり」と記しています。

加茂橋を渡り、少し左折すればよいよ歴史溢れる大塔地区の熊野古道がはじまります。滝尻王子へ向うまでの美しい川や山々に癒され、歴史ロマン熊野古道を是非歩いてみてください。

- ① 花折地蔵
昔は耳や目のお地蔵さんとして祀られていたものが、地元の人たちが花を手折って供えたことから「花折地蔵」とよばれています。写真左手に幅50cmほどの華の生い茂った細い道があり、「むくまの道」と記された石柱もあることから、これが往古の熊野古道といわれています。
- ② 下附付近
大塔宮親良親王の御所として仕えた平賀三郎国綱は、菅の死後再婚を期して熊野にとどまったが、武運もなくこの地で最後を迎えました。宮から拝領したのが大塔宮親神社(住吉神社に合祀)に祀られています。
- ③ 平賀三郎国綱の墓
大塔宮親良親王の御所として仕えた平賀三郎国綱は、菅の死後再婚を期して熊野にとどまったが、武運もなくこの地で最後を迎えました。宮から拝領したのが大塔宮親神社(住吉神社に合祀)に祀られています。
- ④ 千人供養塔
大塔宮親良親王の御所として仕えた平賀三郎国綱は、菅の死後再婚を期して熊野にとどまったが、武運もなくこの地で最後を迎えました。宮から拝領したのが大塔宮親神社(住吉神社に合祀)に祀られています。
- ⑤ 鮎川王子
旧社地には鮎川王子碑と大塔宮親神社碑が建てられています。往昔はこの碑の付近に王子社があったと見られていますが、明治22年の洪水で旧社地の一部が流失しており、その後、遷跡の開墾に伴い取り取られて、古の面影を残す部分がなくなくなりました。1874年に対岸の住吉神社に合祀されています。
- ⑥ 住吉神社を過ぎるの分岐(右)
住吉神社は明治7年に鮎川王子が合祀されました。社殿の後ろには「おがたまの木」「ムクロジの太木」があり、特におがたまの木は天然記念物にも指定されています。明治の神社合祀時には近隣の小社を多数合祀してきています。
- ⑦ 住吉神社
住吉神社は明治7年に鮎川王子が合祀されました。社殿の後ろには「おがたまの木」「ムクロジの太木」があり、特におがたまの木は天然記念物にも指定されています。明治の神社合祀時には近隣の小社を多数合祀してきています。
- ⑧ 御所平、お薬師さんへの分岐(右)
御所平は、旅人や貴族が休息や宿泊をとり、時には和歌会なども開かれ、長い旅の疲れをほぐし、熊野の地を拜って旅の安全を祈ったといわれています。
- ⑨ 御所平とお薬師さん
【御所平】
後白河法皇は、1191年までに30回御幸されされており「御所平」は後白河法皇の熊野詣での際の御宿(仮の御殿)があった場所といわれています。
- 【お薬師さん】
昔から耳の病気になる、穴のあいた小石を供えてお参りしたという。「お薬師さん(薬師如来)」です。

- ⑩ 舗装道路から未舗装道へ
⑪ 藤原定家歌碑
建仁元年(1201)後鳥羽天皇の熊野御幸にお供した定家は10月13日、田辺御所からその日の宿滝尻に向かいました。鮎川から滝尻までの道程を、羨しいけれど「兼盛(さいか)の隙間」と表現しています。その夜滝尻の歌会で飲んだのが碑にある「そめし秋をくれぬとたれかいはた河」またなみこゆる。山登のそで」さなみに定家は歌会を請われた後「大門王子近くの水飲復置まで一氣に駆けた」と、語り部さんは説明します。
- ⑫ 道祖神と庚申塚付近
⑬ 道祖神と庚申塚
道祖神は降臨合体の道祖神で、さきの神と言われ、神鹿な七のを巡り跡の遺棄を除き旅人を導き、賢き所道、縁結びの神として信仰されています。また、庚申塚は庚申全期で、病魔や病魔を払い除くとされ、縁で運命を決定する神と信じられています。
- ⑭ ふるさとセンター大塔対岸付近
⑮ 大うなぎ生息地碑
オウナギは熱帯性のウナギで富田川は北限の生息地といわれ鮎川付近で1.7m、重さ28kgのオウナギが保護された事があります。
- ⑯ 大うなぎ生息地碑付近
⑰ 北郡トンネル越え
⑱ 新旧二休庚申塔
「休神様」(手が何本もあって一度に沢山のものをとれるから)、「福の神様」といわれています。庚申信仰は中国で信仰されてきた「道教」の教えから起こったもので、六十日あるいは六十年ごとに一度めぐっている庚申のとき、特殊タプーを要求されるという信仰です。石塔の年号は享和元年(1807)年。
- ⑲ 徳木上人碑
美しい修行を行いながら全国を行脚し、庶民の苦難を救ったという江戸時代の念仏行者(徳木上人)を祀っています。
- ⑳ 清姫の墓
清姫の墓の石碑には、「清姫の墓も須て今ここに眠ります。清姫の魂」とご詠歌が刻まれています。墓には薬師堂が建てられています。
- ㉑ 北郡橋